

↑ 教育 トップ	▼ 教育 ニュース	▼ 高校受験	▼ まなびー	▼ 知能パズル パズトレ	▼ 時事クイズ ジジトレ	▼ 教育に新聞を NIE
----------------	-----------------	-----------	-----------	--------------------	--------------------	--------------------

教育ニュース

© 2016/2/1 09:03 神戸新聞NEXT

大学入試も“お受験”時代？ 親の付き添い増加



大学入試センター試験に臨む受験生。保護者の関心も高い＝1月16日、神戸市東灘区の甲南大

拡大

大学入試シーズン真っただ中。近年、試験会場でよく見かけるのが「保護者控室」。受験生の保護者らが待機できるよう、大学側がキャンパスの食堂などを開放。一部では、両親に付き添われて会場入りする受験生が増えているという。過保護か、それとも親の務めか。専門家は「親子関係の変化」を指摘する。（上田勇紀）

大学入試センター試験が1月16、17日にあり、国立大では25日から2次試験の願書受け付けが始まった。2月1日からは関西学院大（兵庫県西宮市）などで一般入試が始まる。

甲南大（神戸市東灘区）は2月初旬の一般入試当日、岡本キャンパスに新しくできた交流スペースを保護者向けに開放する。約100人が入れる。

近年、母親だけでなく、父親も伴って来る受験生が増えているという。従来は食堂を開放していたが、2016年度入試から、場所を移して対応する。

「試験当日だけでなく、オープンキャンパスにも親と一緒に来る受験生が増えている」と同大の広報担当者。入学式や卒業式は保護者が増えて会場に入りきれず、近年はモニターで見守る別室を用意している。

流通科学大（同市西区）も入試当日、保護者向けにキャンパス内のレストランを開放。武庫川女子大（西宮市）なども例年、食堂を開放する。大学入試センター試験でも、保護者向けのスペースを用意した大学があった。

兵庫県内のある大学関係者によると、試験当日、受験生から連絡を受けた保護者から「うちの子の教室が寒い」などとクレームが寄せられたケースも。少子化で受験生獲得が激しくなっている背景もあり、大学側も丁寧に対応しているという。

過保護との声も聞こえてきそうだが、「友だち親子の進化形では」と甲南大の阿部真大（まさひろ）准教授（社会学）はみる。「心配で心配でーというより、親もイベントとして応援する。子どもの側も頼んで付き添ってもらうわけではなく、そんな親を冷静に受け入れる。いまどきの親子関係かも」と分析する。